

史跡箕輪城跡保存整備委員会について

1. 保存整備委員会の目的・趣旨

(国指定) 史跡については貴重な国民的財産であることから、まず適切な保存の措置を講ずることを第 1 とし、その後文化的な活用がなされることが求められている。高崎市教育委員会では国指定史跡である箕輪城跡を永く保存するとともに、文化的な活用を図るため、史跡箕輪城跡保存整備委員会を設けている。委員会においては、箕輪城跡の発掘調査や遺跡保存等にかかる専門的な事項について審議、助言、指導をいただいている。

2. 保存整備委員会の構成

(1) 指導

- ・文化庁調査官

(2) 委員

- ・学識経験を有する者 6 人
- ・群馬県史跡関係担当主監 1 人
- ・高崎市関連部局部長・課長 6 人

(3) 幹事

- ・群馬県史跡整備担当者 2 人

3. 保存整備委員会

原則として年 2 回開催。本年度は 10 月と 1 月。

(1) 10 月の委員会の内容

○平成 18 年度の調査経過の中間報告及び調査方針・方法等の審議

- ・三の丸・蔵屋敷地区の発掘調査の内容報告
(掘立柱建物跡・柵列・蔵屋敷南虎口・造り替えの状況等の検出)

- ・通仲曲輪の発掘調査の内容報告
(橋脚受部の検出)

(2) 1 月の委員会の内容

○平成 18 年度の調査経過の報告 (現地指導)

- ・10 月に説明した発掘調査内容の現地での確認
- ・本丸の発掘調査の内容報告、検討、調査指導
(礎石建物、石組排水溝、柱穴等を検出)
- ・本丸、御前曲輪間土橋の発掘調査の内容報告、検討、調査指導
(石組排水溝、犬走り等検出)

○平成 19 年度の計画について

- ・内容確認のための発掘調査を平成18年度で終了し、平成19年度はこれまでの成果をまとめた報告書を刊行する方針について報告し、了承された。

4. 地元からの要望について

現在の史跡箕輪城跡保存整備委員会においては、文化財保護法に基づいて専門的（考古学的）な立場から発掘調査の成果の検証、調査方針・調査方法にかかる指導・助言を受けるとともに、今後の史跡公園整備にかかる基本コンセプト、基本方針等の検討、史跡整備のあり方、整備方針等についての指導、助言を受けることを目的としている。

箕輪城跡の史跡整備にかかる地元からの要望・意見等については、専門的事項を審議している保存整備委員会とは切り離し、別の機会を設けることによって、史跡整備の方向性等について説明させていただくとともに、地元住民等から意見等をお聞きする場も設けることも検討して行きたい。

史跡 箕輪城跡

高崎市教育委員会

はじめに

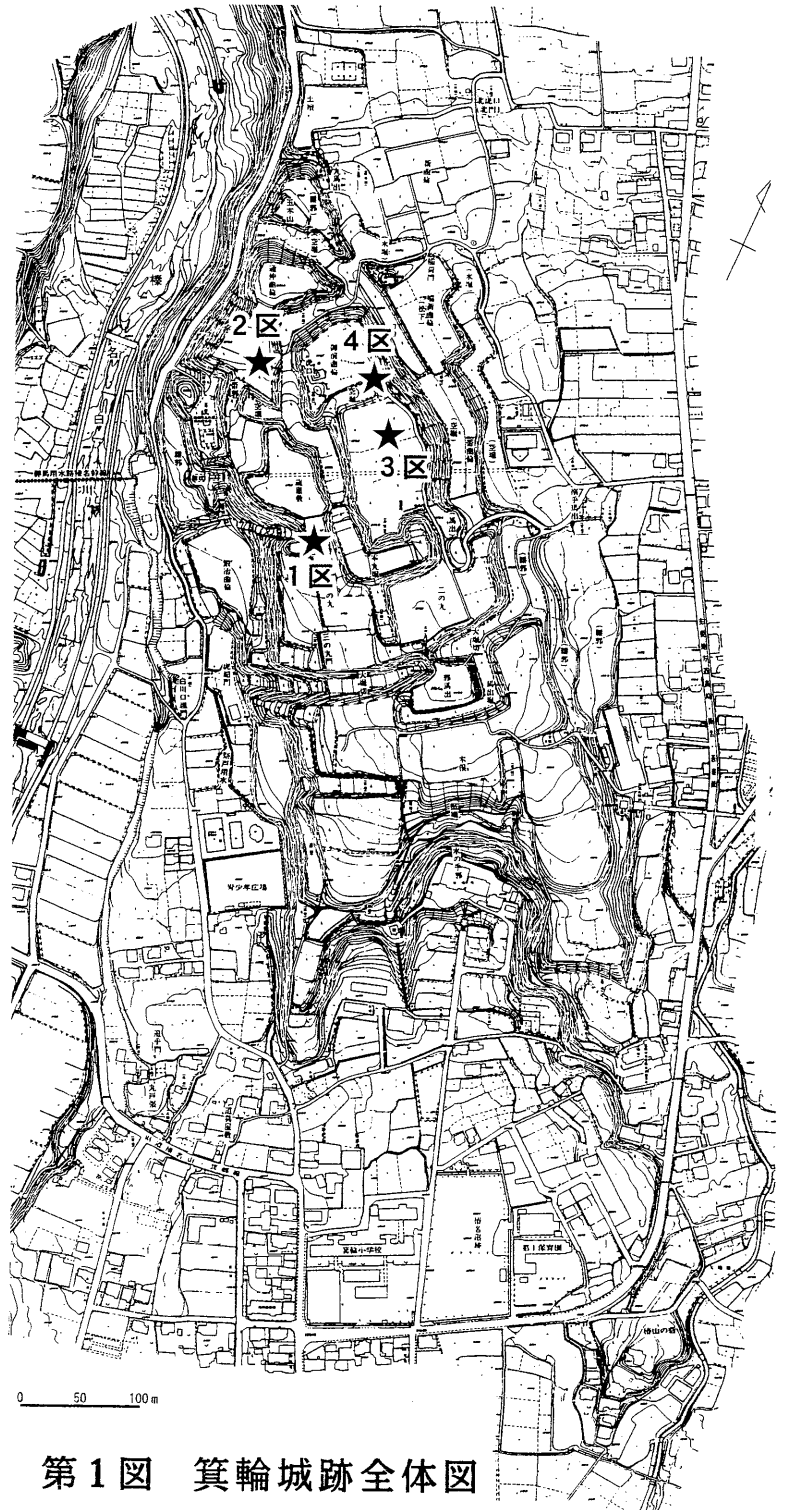
西暦1500年頃に長野氏によって築城された箕輪城は、武田信玄の侵攻を幾度となく防いだ城として名高く、1566年、信玄によって落とされた後は武田・織田・後北条・徳川氏の城として使われました。この間、城主になったのは各戦国大名の重臣で、特に、最後の城主井伊直政は、12万石で箕輪城の城主になっています。このように、戦国時代を通じて各大名が、西上州を支配する最拠点の城として利用し、群馬県を代表する中世城郭で、昭和62年に国の史跡に指定されています。

こうした貴重な史跡を、史跡公園として活用するため、平成10年度より基礎資料収集を目的とした発掘調査を開始しました。今年度は1区(三の丸・蔵屋敷地区)、2区(通仲曲輪地区)、3区(本丸地区)、4区(本丸・御前曲輪間土橋地区)の4地区で調査を進めてきました。

今回の発掘調査の主な成果は、

- ① 1区では、大規模な堀を埋めて、新たに平場を造る城の造り替えの様子がありました。また、建物や柵列の跡、出入口の跡などが確認されています。
- ② 2区では、橋の橋脚の礎石と推測される石が検出されています。
- ③ 3区では、礎石建物の基礎部分がわずかに残っている場所もありましたが、建物の詳細な規模などはわかりませんでした。
- ④ 4区では、本丸と御前曲輪をつなぐ石組の排水溝などが検出されています。

こうした成果を基に、今後の史跡整備につなげていきます



第1図 箕輪城跡全体図

・本丸周辺の改修

今までの調査で、本丸周辺では大規模な城の造り替えがされていたことがわかってきています。本丸南東側の1号堀、本丸北西側の3号堀、及び、2号堀の南東端を埋めて新たに3号堀があった時代は、出土遺物から16世紀後半より古い時代になります。これらの堀を埋め、16世紀末（後北条氏時代以降か）に本丸の各出入口や礎石の建物などが造られています。

今回の調査で確認された三の丸地区の堀は、本丸1号堀の延長線上に位置していることから、その堀と同時代の可能性があります。

箕輪城略年表

年代	箕輪城		全国
	城主	主なできごと	
西暦1,500年頃	長野氏	長野業尚が憲業築城	
1526・1527 (大永6・7)年	業尚 ↓ 憲業(方業?)	この頃長野方業在城	
1560年頃	業政 ↓ 業盛	長野氏(業政)全盛期を迎えるが、武田氏の侵攻始まる	
1566 (永禄9)年	武田氏	武田信玄により、箕輪城落城	
1582 (天正10)年	織田氏 滝川一益 後北条氏 北条氏邦など	武田氏滅亡し、箕輪城には織田信長重臣滝川一益入城するが、すぐに神流川の合戦で後北条氏に敗れ、北条氏康三男氏邦が箕輪城城主になる	本能寺の変で、織田信長殺される
1590 (天正18)年	徳川氏 井伊直政	井伊直政、徳川家康家臣中最大石高の12万石で城主に	豊臣秀吉、後北条氏を滅ぼし天下統一
1598 (慶長3)年		井伊直政、城を高崎に移し、箕輪城は廃城に	豊臣秀吉、死亡



第2図 本丸周辺図

■ 古い時期の堀

● 今年度調査箇所

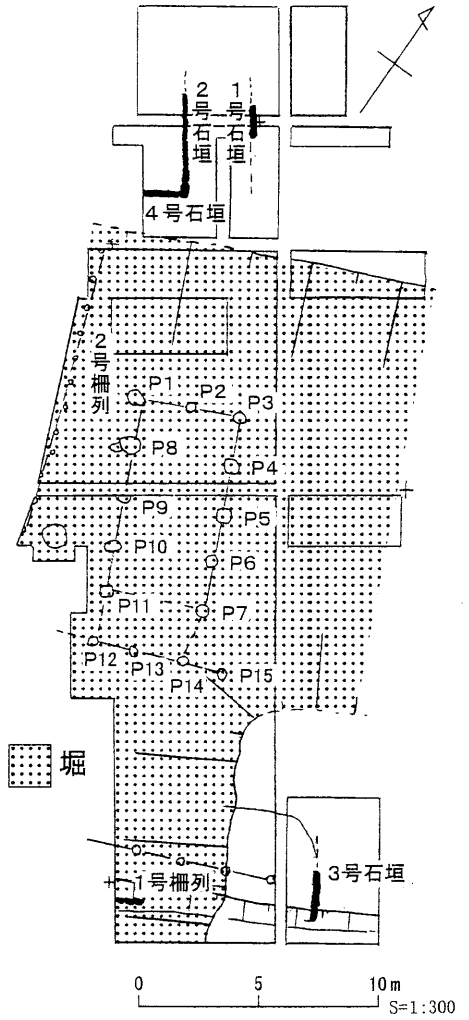
1区（三の丸・蔵屋敷地区）の調査

・時期変遷

1期＝3号石垣と堀があった時期（3号石垣北側は改修されている）

2期＝堀が埋められる（地下10m程度掘ったときに出る白色系の土で東側から埋められている。本丸西側の堀を掘ったときに埋められた可能性あり）。掘立柱建物、柵列の構築。及び、1・2・4号石垣を構築し、蔵屋敷南側に出入り口を構築したのと思われます。

・掘立柱建物はP1～P11の可能性がありますが、P7とP11間の柱穴は確認されませんでした。一方で、P7とP14、P11とP12がつながる可能性も考えられますが、P14がずれることや、P15に対応する柱穴がなくなることから、P12～P15は、建物とは別で柵列等の可能性があります。



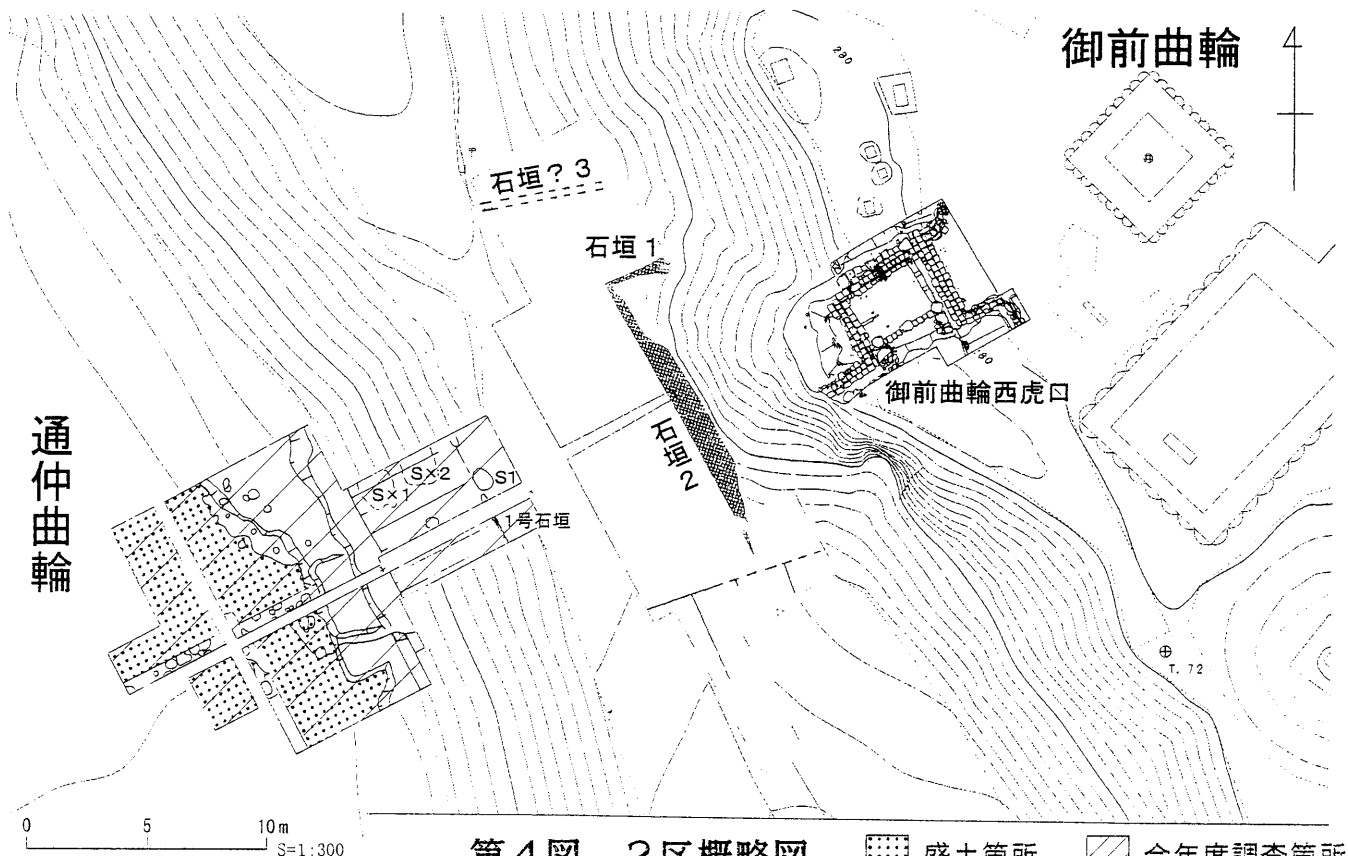
第3図 1区概略図

2区（通仲曲輪地区）の調査

S1が大きさや据わり方などから、橋脚の礎石になるとは思われますが、昨年度に調査した箇所を含め、対応する礎石は検出されていません。他にもあったが、既に抜かれてしまった可能性があります。

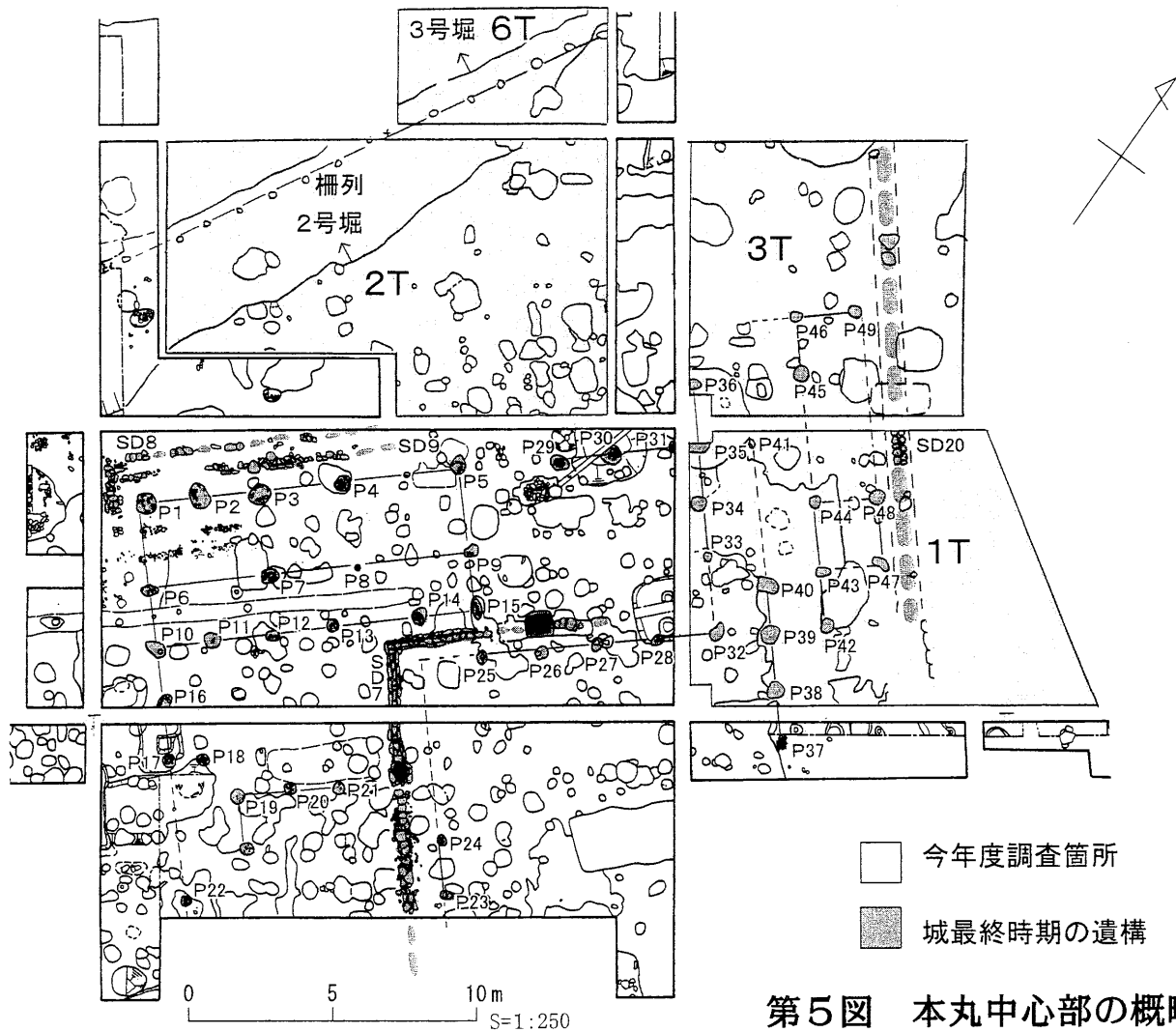
橋を受ける明確な遺構は斜面上部には検出されませんでした。

柱穴が斜面上部で検出されていますが、16世紀中葉以降に盛土された土の下の柱穴で、16世紀末の城最終時期の橋脚に関わる柱穴は検出されていません。



第4図 2区概略図

盛土箇所 今年度調査箇所



第5図 本丸中心部の概略図

3区（本丸地区）の調査

廃城後の耕作によって残りが悪い状況でした。建物の礎石の下に入れる「栗石」と呼ばれる径5cm程度の石の集中する箇所が17箇所程度確認されました。礎石の間隔はおおよそ200cmで、昔の6尺5寸にあたりますが、本来はさらに多くの礎石があったと思われる、建物の規模などは今回の調査では明確にはつかめていません。こうした礎石に関わる遺構は出土遺物などから、城の最終時期にあたり、建物周囲には、石組の雨落ち溝がめぐらされていたことがわかっています。今回、わずかに底石だけが残っていたSD20もそうした溝の可能性がありま。これらの遺構よりも古い時期の多数の柱穴や2号堀、及び、2号堀を埋めて新たに造りなおした3号堀や、3号堀と同時代と推測される柵列の跡なども確認されています。

用語解説

- トレンチ いこう 遺構の範囲や土の堆積状態を確認するため、細長く部分的に掘る試掘溝のこと。
- こ ぐち
虎 口 出入り口のこと。
- うま だし
馬 出 もう しゅつげきようしせつ 虎口の外に設ける出撃用施設で、兵が一時的に駐屯する場所。
- くる わ
曲 輪 まわ 土塁や柵、堀などで囲まれた一定の区域のことで、尾根や斜面地などは一部を造成して平地にすることもある。

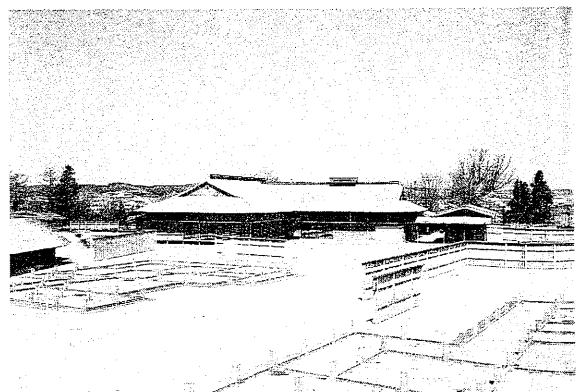


写真1 根城（青森県）本丸の復元建物